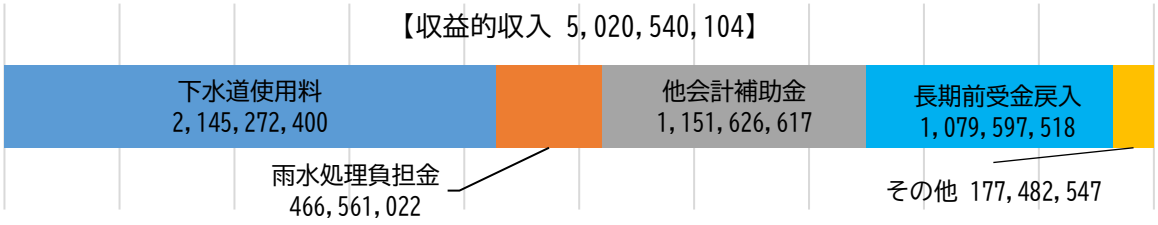
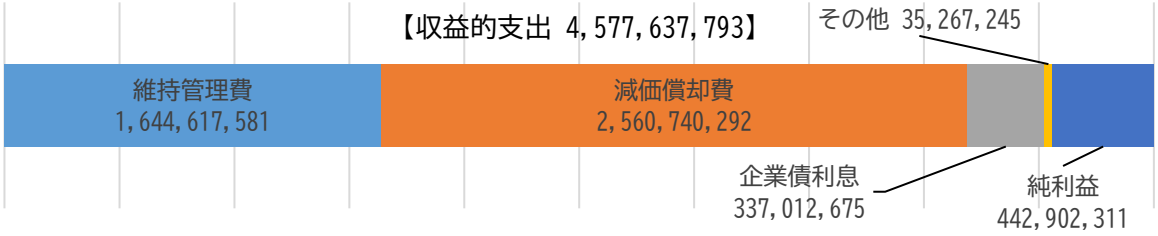
資料1－2

令和6年度　公共下水道事業会計決算の概要

①収益的収支(税抜・単位:円)

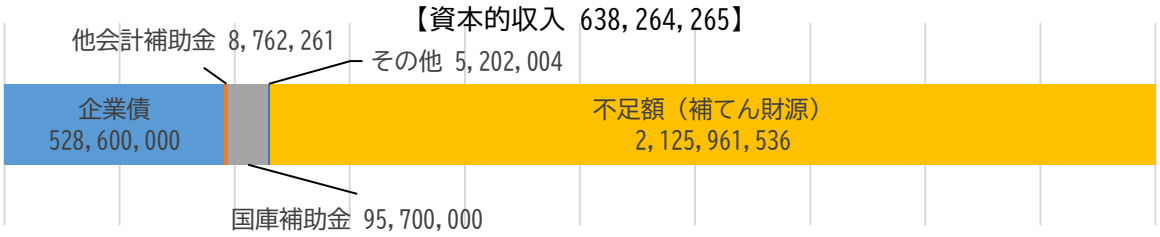
1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益及び費用





②資本的収支(税込・単位:円)

施設の建設など支出の効果が翌年度以降に及ぶ費用などの支出とその財源となる収入

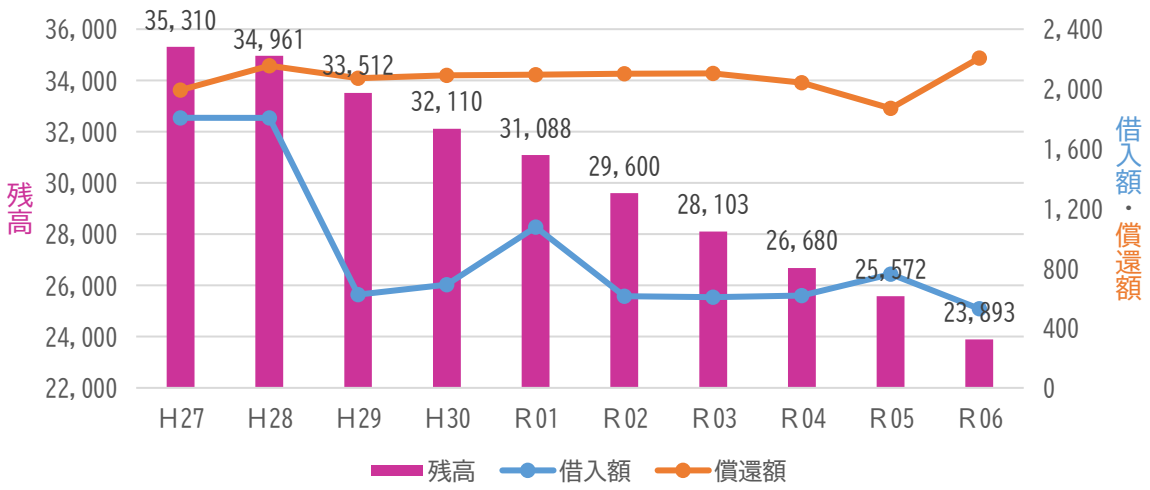


【決算のポイント】

- 前年度と比べて下水道使用料が約 6,950 万円の増収となりましたが、経費回収率は 100 パーセントを下回っています。
- 前年度から約 4,700 万円増の 4 億 4,290 万 2,311 円の純利益（黒字）を計上しました。
- 資本的支出の約 75 パーセントを企業債償還金（借金の返済）が占めています。
- 不足額は内部留保資金（損益勘定留保資金など）で補てんしました。

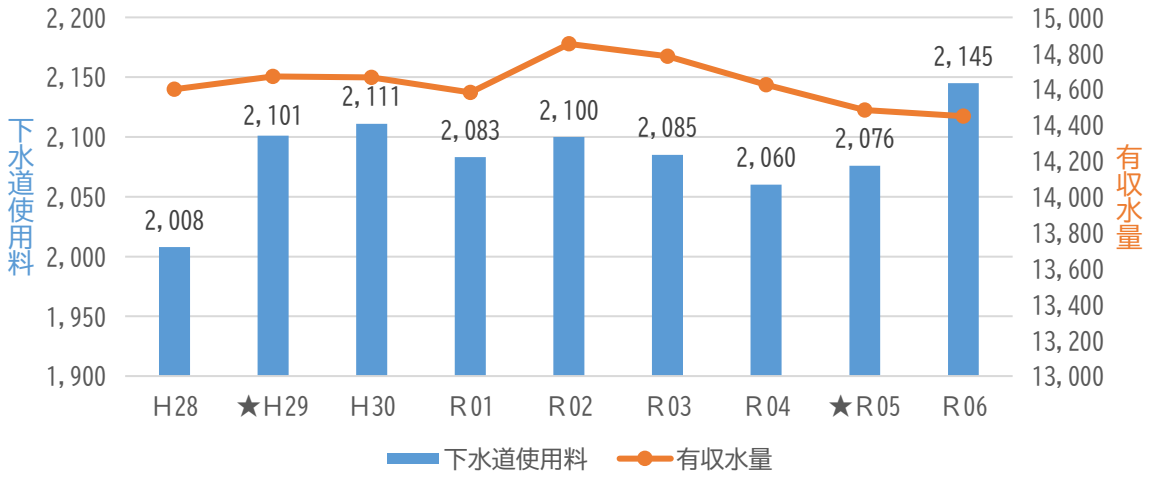
メモ	※減価償却費…長年使用する資産の取得費用を耐用年数に応じて費用化したもの ※長期前受金戻入…長年使用する資産の取得時に交付された補助金等を減価償却費と同様に収益化したもの

企業債の推移（単位：百万円）



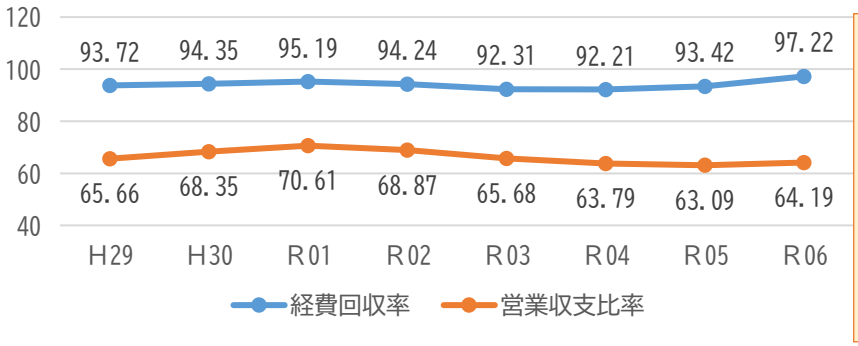
【企業債残高の推移】
- プライマリーバランスを確保し、残高の縮減を進めてきました。
- 平成 27 年度に汚水整備が概ね完了したことに伴い、借入額は縮小しています。

下水道使用料収入と有収水量の推移（単位：百万円、千㎥）



【下水道使用料と有収水量の推移】
- 節水機器の普及などにより有収水量の減少に合わせて、使用料収入も減少傾向にあります。
- 平成 29 年４月（平均＋5%）と令和５年 10 月（平均＋5%）に使用料を改定しました。

経費回収率と営業収支比率の推移（単位：%）



【健全経営】
- 経費回収率が 100%を下回る状況が続いています。
- 営業収支比率が低く、営業外収入（繰入金）への依存度が高い状況にあります。